

川上宏奨学金研究成果報告書

令和 3 年 2 月 12 日

研究課題名： マンガとともにつくる人生

ーマンガ鑑賞場面調査とオンラインインタビューを通じてー

キーワード：マンガ、鑑賞場面調査、人格形成、価値観、アニメ

研究者名：成城大学文芸学部マスコミュニケーション学科 4 年

1. 研究方法

本研究では、鑑賞場面調査とインタビュー調査の 2 種類を採用した。まず鑑賞場面調査では、パソコン上でマンガを読んでもらい、Web カメラを使いながら画面と合わせてキャプチャーを協力者が記録した。マンガ作品は、調査協力者が特に感情を動かされたシーンのある巻数を選んでもらい、あらかじめ PDF ファイル化しておいた。記録は、ページの視聴時間や、表情及び動画内での発話を中心に分析した。

鑑賞場面調査のあと、インタビューを通してマンガ経験について語ってもらった。今回は新型コロナウイルス流行下という状況に鑑みて、オンラインインタビューという形式を採用した。その際、事前に了解を得た上で iPad、iPhone8、ZOOM の録画機能の 3 点を用いて録音した。これを文字に起こし、トランスクリプトとして作成したものを基本データとして使用した。また追加インタビューでは LINE のチャット機能を使用し、補足したいデータを収集した。

2. 卒業論文要旨

「マンガを読む」手段が多様化しており、紙媒体に加え電子媒体でのマンガ鑑賞経験の広がりが見られた。電子媒体は、試し読みや無料連載を鑑賞する際にアプリを用いる場合が多かった。一方で誰かにオススメしたいマンガに関しては紙媒体で購入する傾向があることが分かった。また家族の影響や、家庭の教育方針によってマンガ鑑賞に違いがあった。特にきょうだい間でマンガを共通の趣味にしている人たちは、幼少期の段階で濃くマンガと関わっていたことが分かった。そして、マンガの鑑賞スタイルも、マンガの世界に自己投影させる読み方と、俯瞰して見て楽しむ 2 パターンがあった。自分が悩んでいた事柄に対してヒントをくれる教科書としている者、表現できなかった感情に言葉を与えたという者、物事の基準をマンガで教わった者など様々な使い方をしていることが分かった。

以上のことから、マンガ経験が協力者に大きな影響を及ぼしており、ひとり一人の生涯レベルでの影響力を持っていた。すなわち、進路選択における大きな決断時、人格形成や価値の形成のことを指す。また、ものの考え方という観点においても、マンガ経験が非常に有効な手段として用いられていたことも分かった。

3. 研究費用途内訳

撮影アプリダウンロード及び機材費

資料収集費

交通費

インタビュー調査の御礼（4人）

通信費

4. 謝辞

今年、卒業論文を執筆する上で欠かせない、調査そのものが非常に難しい年となりました。コロナ禍で直接協力者と会うことが出来ない中で、いかに有意義な研究ができるのか頭を悩ませました。参考資料も少ない鑑賞場面調査において、今回の奨学金は大変大きな後押しとなりました。この場をお借りして、故川上宏先生とご遺族の皆様へ感謝の意を表わします。本当にありがとうございました。また、本研究を実施するにあたり、調査に協力して下さった皆様、お忙しい中いつでも相談に乗ってくれ、的確な指導をして下さった南先生をはじめ、自分の論文で大変な状況下でもアドバイスをくれた同期生に感謝を申し上げます。また、両親はもとより、卒業論文執筆時に支えて下さった全ての皆様へ御礼申し上げます。